

畜

産

Mini Letter



牧草 09

■ 発行：渡島農業改良普及センター（本所） | 【電話】 0138-77-8242

今号

- 基本チェック
- 生産者の事例
- トレンド情報
- その他

地域の畜産農家・関係機関・普及センターが技術情報を通して結ばれるよう、2016年4月に誕生！『基本チェック』、『生産者の事例』、『トレンド情報』の3ジャンルを中心にお届けします。

「イタリアンライグラス」重視で管理していく判断

サマリー

- ・出穂期に収穫した「イタリアンライグラス」(IR)の栄養価は高く、チモシーと同等かそれ以上である。
- ・チモシー草地の2番草(以降)が悩ましい。7/下旬～8/月上旬には、IRは開花～結実期に達している。
- ・チモシーとイタリアンの比率が逆転しても収量性はほぼ変わらないが、“栄養価”は変化している。

チモシー草地の“イタリアン”攻勢にどう対処する

- ・植生調査を行うと、多くの地区で「イタリアンライグラス」(以下、イタリアン:IR)が観察される状況となっています。
- ・3回刈りのオーチャードグラス草地であれば、2番草をやや早めに収穫してイタリアンを制御できるかもしれませんが、悩ましいのはチモシーの場合。従来の管理で、チモシーを維持しイタリアンの拡がりを抑えていくのは難しいでしょう。
- ・今号では、イタリアン比率と栄養価に着目してみます。生長が早く栄養価の高い草種特性を逆手にとり、該当の草地だけ“出穂期に収穫する”経営判断もあるのでは？と考えます。

★道内 1960年代 その昔

* 多草種のイネ科草混播の記録あり
当時、イタリアンも普通に導入された

今

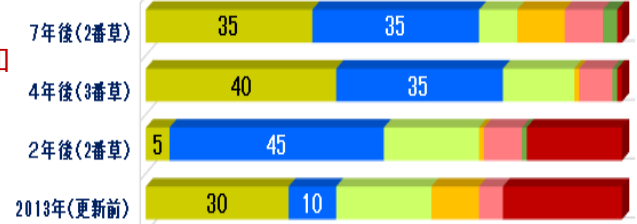
★ 当地区イタリアン事情

- * “未播種”にも関わらず… ⇒ **自生**
- * 道内で“越冬しない”はず… ⇒ **越冬**



数年でイタリアンと同等となったチモシー草地 (HA地区; 2020.8.17) この草地の植生調査結果: 右グラフ ⇒

再び IR増加



イタリアンと“裸地”が増えて更新した

■ イタリアン ■ チモシー ■ 刈り草 ■ 他イネ科雑草 ■ ギンギン ■ 他広葉雑草 ■ 裸地

イタリアン情報(和名:ネズミムギ)

あれこれ

★ライグラス同士の交雑

イタリアンライグラス × ペレニアルライグラス

★「除草剤」使用に制限がある地域
技術確立 IRを播種してシバムギ等を駆除



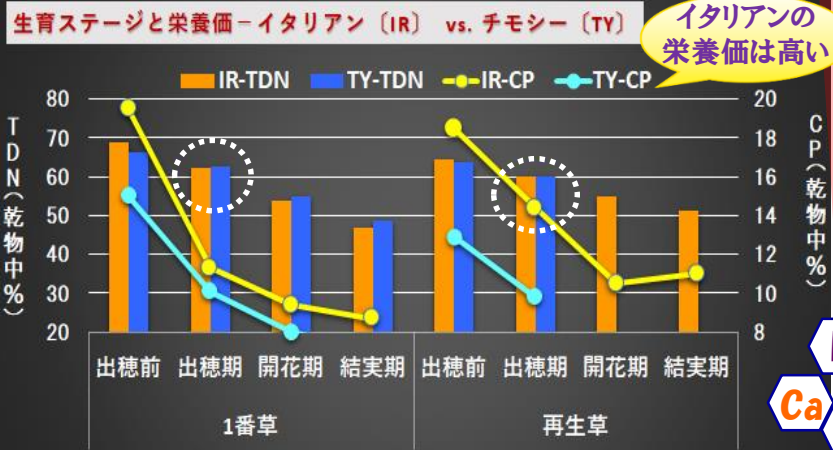
府県の事例

* 水田害虫“カメムシ類”が好む生息場所
* 一部“除草剤”に抵抗性あるタイプ出現

★ミネラル成分が高い

*チモシー対比 (出穂期)

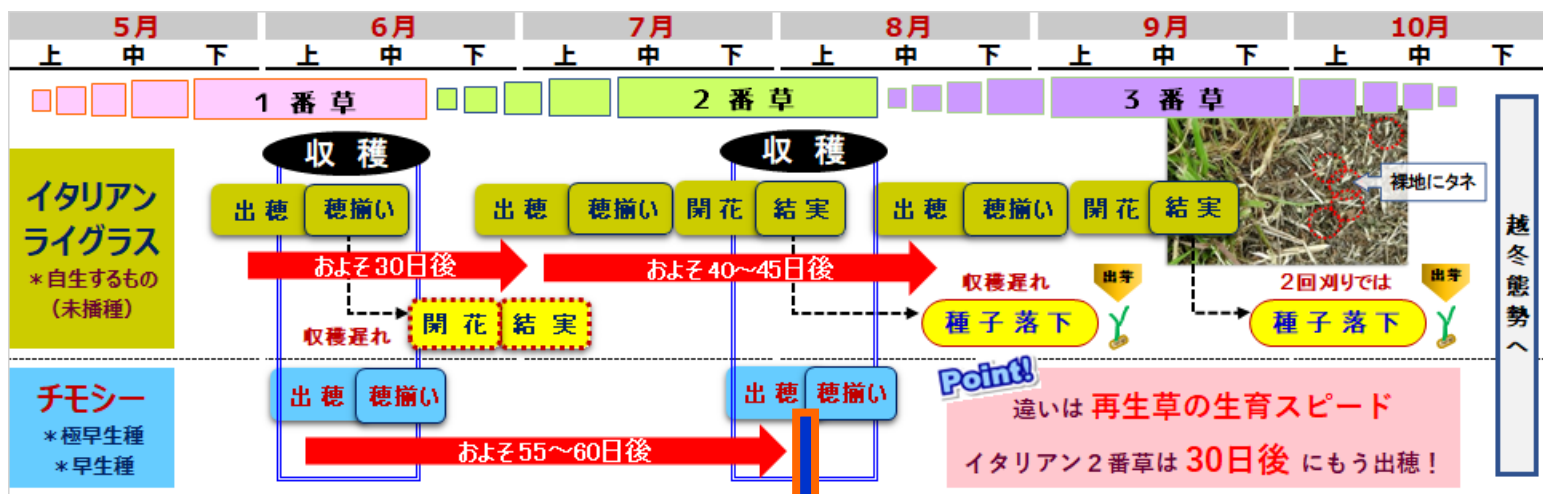
★乾物収量(根拠地域データ)
年間 700~800 kg/10a



■ 「日本標準飼料成分表」2009年版 / 「乾草」、TY1番草および再生草の一部データなし

イタリアンが悪者じゃない！・・・チモシー草地で何が悩ましいのか？

・イタリアンは早春の萌芽、収穫後の再生が早いです。悩ましいのは、2番草収穫をチモシーに合わせると、先に開花～結実期に達している点です(下図)。チモシー中生～晩生種なら、すでに種子が落下している可能性もあります。



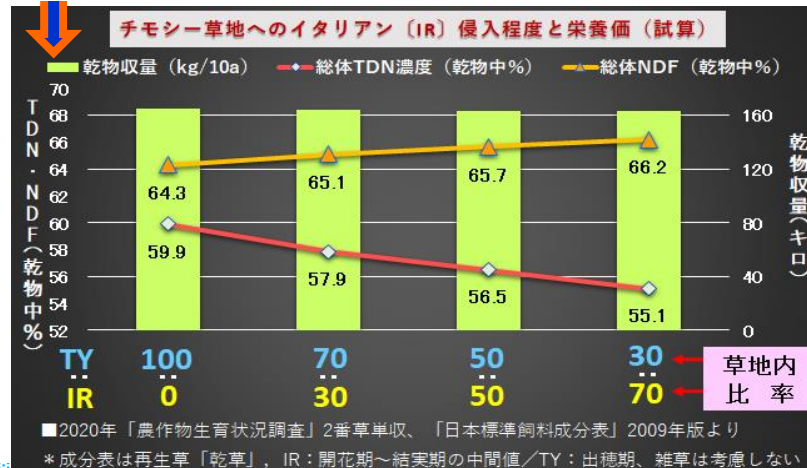
イタリアン増加で変化する栄養成分

・・・収量性ほぼ変わらず

- ・ある条件の試算では(他の雑草を考慮しない等)、イタリアン比率が高くなっても総体の乾物収量は維持されます。
- ・イタリアンに70%占有されると、乾物中TDNはおよそ5ポイント低下、NDF(総セニイ)は数ポイント上昇します。

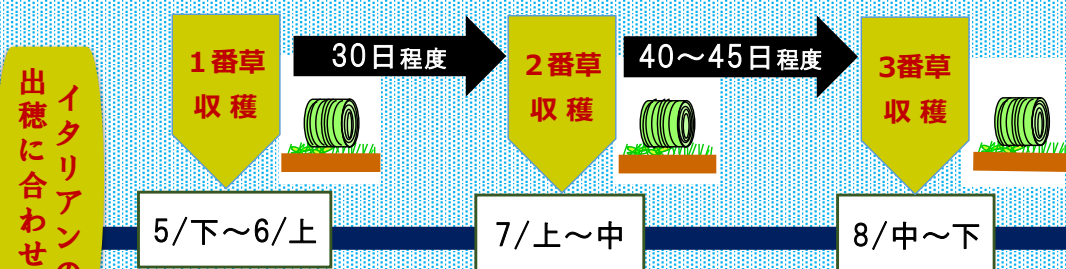


左：3月下旬、最も早く萌芽している越冬株 (SN地区：2020.3.30)
右：種子から秋に出芽し、越冬前で約10cm (HA地区：2020.11.25)

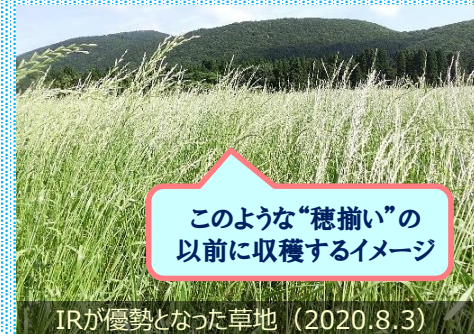


優占度が高くなった「イタリアン」を活かす・・・収穫時期の転換例

- ・栄養変化の可能性は前述のとおりですが、個々の農家で牛の飼養状況が違います。あくまで経営上の判断です。
- ・次の草地更新に近い、また、栄養価重視、単収確保を優先したいほ場で、年3回収穫を試みてはどうでしょうか？



※最初に1番草収穫を行い、イタリアンの栄養価が高い出穂期のうちに収穫
※1番草の収穫期間が30日程度要するのであれば、(最初に戻り)続けてイタリアンの2番草を収穫



検討

- 府県では、IRがオーチャードグラスまでも制圧してしまうため、“管理・利用法”ができています。
- 多回刈り、完熟堆肥の散布、収穫機械の洗浄等が推奨されています。当地区の侵入防止では、難防除の「ハルガヤ」同様の更新計画を練りましょう。

【出展/参考文献】

- ・「永年草地で優占したイタリアンライグラスの管理・利用法」～(社)日本草地畜産協会/H23年3月
- ・「根釦地域におけるイタリアンライグラスを用いた雑草防除法」～根釦農試
- ・「令和元年産米の病害虫対策」～『米麦改良』(142号2019.6)
- ・「グリホサート抵抗性ネズミムギ」～『技術と普及』(2019.6)

○詳しくは、渡島農業改良普及センター本所/畜産担当まで、お問い合わせください | 【電話】0138-77-8242



渡島農業改良普及センター
ホームページ (トップ)

ダウンロードはここから(PDFファイル)

渡島 営農技術情報

検索

<http://www.oshima.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/tec/tikusan.htm>